

# 沈黙する 美学

アートと  
エコロジーの  
対話の試み

2008  
5.23  
*f r i*  
15:00 -  
17:00

地球研 / 講演室

Photo : Buddha head at Wat Mahathat, Ayutthaya

申込不要・聴講無料

講師：グレゴリー・レヴィン氏  
(カリフォルニア大学バークレー校准教授)  
主催：総合地球環境学研究所(地球研)  
プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」

# 沈黙する美学

## アートとエコロジーの対話の試み

仮にあるとしての話だが、美術史(アート・ヒストリー)と生態学(エコロジー)もしくは環境保護思想との関係はいかなるものなのだろうか。「アート」、「美術史」、「エコロジー」、「環境」——これらの定義しだいでその答えはおのずと変わってくるだろう。一般的には、美術史と生態学は、専門領域としても認識スタイルからしても、たがいに方法も研究の場もまるで共有するところのない別物だ。ではあるけれども、世界中いたるところで、人間活動が地球に与えるインパクトや人間文化の持続可能性がますます盛んに論じられつつあるなか、研究分野としてであれ、あるいは職業としてであれ、美術史なるものを少しづつはなして厳しく問いたしてみることはあながち無益なことではないだろう。

「アートとエコロジーの関係は？」などと尋ねられたら、もしかしたら、ハイブリッド車に乗り、オーガニック食品を買い、水の利用を節約する、そんな生活に積極的にいそむアーティストなり美術史家の姿がイメージされるかもしれない。だが、ここで念頭に置いているのは、こうしたイメージで安直に答えられる問題ではない。「美術史と生態学」もしくは「アートとエコロジー」と二つの言葉を単に並べてみただけのようだが、じっさいのところこの並置は、人間と動植物の分断、バイオ・ディゼンとバイオ・ポリティックス、ネオ・リベラル・バイオ・キャピタリズムとポスト・ヒューマン、知覚存在と非知覚存在など、人間文化の所産や人間中心主義にまつわる数多くの議論につながる広がりをもっている。したがってここでは、人間活動や持続可能性に対する態度の取りようを一般論として論じるのではなく、こうした議論のつながりのなかで、アート、とりわけ美術史研究やその解釈の営みがおかれている状況を提示することにしたい。

いったい美術史的思考というのは、環境保護意識に何かしかなの貢献をするものなのだろうか。それとも、(字義どおりもしくは認識論上は)環境破壊を促進するものなのだろうか。美術史研究は、かのバリー・コモナーが生態学の第1法則として唱えた「…すべてのものは他のすべてのものと関連している」という循環の思想と関わるべきなのか——だとしたらそれはいかにしてか。美術史研究は「アート」なる対象を「エコロジカルな」対象として扱うべきなのか。昨今の「ワールド(あるいはグローバル)・アート・ヒストリー」に対する関心は、こうした点を再考するチャンスとなるのか。環境保護論者のなかには美術史研究のカウンターパートとなるような連中がいて、いっしょに「エコ・アート・ヒストリー・レビュー」といった学術誌を発刊するようなことになるのだろうか。この雑誌が研究対象とするのはどんなたぐいのアートなのだろうか。そこではどういふタイプの研究と提携することになるのだろうか。そこに投稿する者たちは、いかなる哲学的ないし倫理的立場を取るようになるのだろうか。

このセミナーでは、こうした問題をふまえてアートとエコロジーの対話を試みていくが、さしあたり扱うのは芸術作品であり、美術史的分析である。もちろん専門分野としての「美術史」には、さらに検討しなければならない点はあるだろう。けれども、それはそれでエコロジカルな思考にながしか寄与するものでもあろうと期待する。おそらくは、自然科学にはできない仕方だ。

(グレゴリー・レヴィン×鞍田崇・環境思想セミナー担当)

### 【講師】 Gregory P. A. Levine

カリフォルニア大学バークレー校准教授。1997年、大徳寺聚光院に関する研究で博士学位取得(プリンストン大学)。専門は日本美術史。芸術作品を単独で扱うのではなく、作品が置かれた建築空間やその空間で営まれた儀礼などの実践的状況との関連に注目し、さらには逆にそうした状況的制約をあえてずらすことを試みることで、立体的な作品解釈を試みている。主な著書に、「Daitokujii: The Visual Cultures of a Zen Monastery」(University of Washington Press, 2005)、「Awakenings: Zen Figure Painting in Medieval Japan」(共編著、Yale University Press, 2007)など。

※講演は英語です。(質疑は日本語も可)

## 会場：総合地球環境学研究所 (地球研) 講演室



〒603-8047 京都市北区上賀茂本山475-4

●烏丸線「国際会館駅」より京都バス40系統「地球研前」下車

●叡山電鉄「京都精華大前」下車(徒歩約10分)

■お問い合わせ 075-707-2382 kurata@chikyuu.ac.jp

■車・タクシーでお越しの方は  
国際会館より府道40号線で二軒茶屋方面へ。

■JR京都駅より  
地下鉄烏丸線で「国際会館」下車。国際会館駅3番又は4-1番出口より「国際会館駅」バス乗り場「2」から京都バス40系統(京都産業大学前ゆき)に乗車(所要6分)し、「地球研前」下車。

■京阪沿線より  
出町柳で叡山電鉄鞍馬線に乗換え、「二軒茶屋」下車。徒歩10分。

### 人と自然：環境思想セミナー ～今後の予定～

第11回／6月13日(金)

「深き淵より一守破離の彼方へ：  
やきものの現在と自然」

講 師：十五代 楽吉左衛門氏  
(陶芸家・楽美術館館長)

第12回／7月15日(火)

「近き花、遠き花：  
‘たてはな’に見る自然との関わり」  
(仮題)

講 師：川瀬敏郎氏(花人)

第13回／8月21日(木)

「千年の食卓：  
源氏物語における食材と料理」(仮題)

講 師：堀場弘之氏  
(料理人・京料理「六盛」代表取締役)

主催 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所  
プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」(リーダー：佐藤洋一郎・地球研教授)

<http://www.chikyuu.ac.jp/sato-project/>